

横浜市一般廃棄物処理基本計画

ス リ ム  
ヨコハマ3R夢プラン

推進計画

2018~2021

Reduce

Recycle

Reuse





# はじめに

## 横浜らしい循環型社会に向けて



### G30を思い出す

横浜G30プラン（2002年～2010年）（以下、「G30」という。）は、横浜のごみ行政の大きな転換期でした。燃やすごみの量が飛躍的に増加し、エネルギーの消耗、最終処分場不足などひっ迫した問題を抱える中、ごみを30%削減するという高い目標を掲げ、市民・事業者の皆様と勇気ある挑戦を始めました。多くの皆様のご協力により、3年間で目標を達成し、2つの焼却工場の閉鎖、1つの焼却工場の休止につなげることができました。人口300万人を超える大都市において、極めて短期間で、ごみ量を削減できたことは、奇跡とまで言われています。以後、横浜市の取組は、国内はもとより世界からも注目されるようになりました。



### 成功要因は地域の皆様との協働

G30を横浜で実現できた理由は、ひとえに、市民の皆様の高い意識と行動力です。自治会町内会や環境事業推進委員の皆様、地域での説明、集積場所での声かけなどを熱心に行っていただきました。また、行政も、分別を理解してもらうために、15,000回もの説明会や早朝啓発などを開催しました。地域と行政の協働の力が、市民一人ひとりの意識と行動を変えることにつながりました。



### 今も高い市民の意識

G30以降、横浜市のごみ量は、家庭系を中心にリバウンドすることなく、減少しています。G30のような輝かしい成果ではありませんが、大都市において、分別が定着しつつあるのは、単にルールに従うだけでなく、行動を支えているという意識が伴っているからです。そして、こうした市民の皆様意識は、これからのごみの取組への大きな力となります。



### 地域コミュニティの力

横浜市では、市民の皆様意識や行動、つながりによって、地域で様々な取組が進められています。自助共助による避難所を中心とした防災活動、単身高齢者の見守りなどの福祉活動、防犯パトロール活動、さらには、公園の清掃や花植えなどの環境活動、青少年育成など、その取組は広い分野に渡ります。身近な安全と安心を自分たちの力で守るといった土壌、これこそが横浜の誇るべき市民力です。

また、最近では、若者を中心とした新しいスタイルのコミュニケーションにより、ごみ拾いや商店街振興、被災地支援などの社会貢献につながっている事例も多くあります。地縁的なつながりのない多種多様な団体を積極的に受け入れ、活動の輪を広げている地域も見られます。こうした新しい力も横浜で取組が広がる大きな原動力になっています。



## これからの政策

分別が進み、燃やすごみの大幅な削減は難しくなっています。また、分別した資源物をリサイクルして、循環させていくためには、安定した経済環境が必要です。さらに、焼却工場や選別施設など、老朽化する施設の維持更新には、多額の費用を要します。地球温暖化対策とエネルギー問題も大きな課題です。

こうした厳しい状況にある今だからこそ、これからのごみの政策は、ごみ量の削減というひとつの目標ではなく、多くの課題に同時に向き合っていく必要があります。

まず、私たちがどういう社会を目指し、子どもたちに希望ある横浜を受け継いでいくのか、そして、そのためには、どういう道すじがあるのか考えなければなりません。



## 横浜らしい循環型社会へ

今回のヨコハマ<sup>スリム</sup>3R夢プラン推進計画（2018～2021）（以下、「推進計画」という。）では、「横浜らしい循環型社会」の道すじを追求します。

市民や地域の皆様の様々な創意工夫による意欲的な取組、事業者の皆様の技術開発やイノベーション、そして、ボーダーレス社会ゆえに、何よりも市民の皆様一人ひとりのライフスタイルの中で、その人らしい取組がつながり、広がっていくことが大切です。

この推進計画は、皆様と「ともしつながる」ためのきっかけです。横浜らしい循環型社会づくりに向けて、着実に前進していきます。

### 【ヨコハマ<sup>スリム</sup>3R夢プランの基本理念】

ヨコハマ<sup>スリム</sup>3R夢プランは、分別・リサイクルはもちろんのこと、環境に最もやさしい「リデュース（発生抑制）」の取組を進めることで、環境負荷の低減を図り、豊かな環境を後世に引き継ぐことを目的にした計画です。

# Contents

## 目次

### 第1章 取り巻く環境の変化と今後の課題

1 人口推移と予測	1
2 市民の意識と暮らし	1
3 経済動向	3
4 世界の動向	4

### 第2章 一般廃棄物及び産業廃棄物の現状

1 一般廃棄物の現状	5
2 産業廃棄物の現状	6

### 第3章 計画の概要

1 計画の位置付け	7
2 計画期間	7
3 考え方と基本目標	7
4 施策体系	8

### 第4章 目標

1 ごみと資源の総量の今後の見通し	9
2 目標設定	11

### 第5章 5つの「つながる」プロジェクト

1 「福祉とつながる」	13
2 「地域とつながる」	15
3 「安心につながる災害対策」	17
4 「活力につながる公民連携」	19
5 「未来につながる循環インフラ」	21

## 第6章 9つの推進政策

1	3R行動に向けた環境学習・プロモーションの推進	23
2	安全・安心と市民サービスの向上	27
3	食品ロスの削減	31
4	まちの美化	35
5	リサイクルの推進	39
6	地球温暖化対策・エネルギーマネジメント	43
7	持続可能なストックマネジメント	47
8	国際展開・技術開発の推進	51
9	適正処理の推進	55

## 第7章 推進計画とSDGsとの関わり

## 参考 推進計画の位置づけ

### コラム

・2025年問題とごみ問題	2
・粗大ごみのインターネット申込み	30
・恵方巻きと食品廃棄	34
・プラスチックごみと生態系	38